

おしゃれなカタツムリたち
がお出迎え♪



人間って
気持ちで生きている
理事長 苅部 一夫

緊急事態宣言の延長で、ご利用者様とご家族様には大変ご不便をおかけしております。皆様のご協力のもと、職員一同自身のことを置いてでも、支援が必要な利用者へのサービスが確保されるよう強い信念をもって日々頑張っております。

最近では、感染症と闘うのではなく、共存することが大切だと言われます。そしてそれは、新しい生活習慣や社会構造に大きな変化をもたらすとも言われています。

「テレワーク」や「ウェブ会議」それ以外にも「オンライン教育」「電子決済」等、インターネットを利用した仕組みも急速に広まっています。「人と接しない」「対面しない」場面が増えていくのでしょうか。

龍鳳でも三密を防ぐため、会議や研修会を「ウェブ会議」で試行してみました。私のような者は、どうも画面だけではだめだと思ふ気持ちもありますが、ロボットやAIを利用した社会システムは後戻りできないと覚悟をきめなければなりません。

危機のときこそ、社会の脆弱な面が露呈するものです。これまでの日本が進めてきた「医療」「福祉」「困窮者」の課題にはより多くの予算が必要になるでしょう。一見「無駄」に見える「余裕」がなくなった社会構造になってしまっています。

もう一つ、改めて思ったことは、経済活動のことで、多くの企業で厳しい状況が起きていること、倒産する会社も増えてきています。「経済」とは何か、それが分かる一面が見え

た気がします。経済活動が、物やサービスの対価としてお金が動くことだとすれば、今回の緊急事態宣言で移動の自粛によって痛みを受けたのは、特にサービス業だと思えました。物流は、ITを駆使して非接触、自動化することはできても、サービスの多くは直接触れ合ったり、感じ合ったりすることへの対価と言えます。サービスは生身であるが故の価値に対価を支払う経済活動なのです。音楽、エンターテインメントなどは、臨場感の中でしか味わえない感動があります。旅行や体験型のサービスもそこにいるからその価値と言えるでしょう。

「自粛疲れ」が、外出を「我慢」することだとすれば、人々が求めているものは「臨場感」や「非日常」でしか味わえない感動なのでしょう。ステイホームの過ごし方多いのは、料理や工作、音楽鑑賞、読書などです。やはり人間は体験や触れ合い、新しい出会いによる感動をいつでも求めています。経済活動は人々の精神活動の上に成り立っていることに改めて気づかされます。

このことは、障害者の方でも同じだと思います。施設の中では、ともするとステイホームの状態になりがちですから、臨場感や触れ合い、新鮮な出会いのある活動をより求められていると思います。

この先に見えてくる世の中は、IT社会であることは間違いないかもしれませんが、それでも人間は常に「気持ちで生きている」ことを肝に据えておきたいと思えます。

<江嵐 響>

ボウリングゲームでの出来事です。あるご利用者が転がしたボールがペットボトルに当たり、見事ストライク！その様子を見ていたTさんが、倒れたペットボトルを指さして「ねんね🐼」とおしゃいました。そんな捉え方があるんだ！素敵な発想だなあと心がほっこりしました♪

共有スペースで音楽を聴いてのんびり過ごしていた時のこと。あるご利用者の足元を指さして、Kさんが「反対だよ」と一言。パッと見ただけで、靴が左右逆であることに気がついたKさん！細かいところまで、さらに目を向けなければ…！と気が引き締まりました。

キラリ☆と光るこの一枚

撮りためた写真の中から、職員がぜひ見てほしい！と選んだ写真を不定期でご紹介♪



G・W中のおやつ会にて「わぁ！上手！」と職員から歓声が沸きました☆
(山賀)



天気の良い日に、みんなでシャボン玉をしました☆とても綺麗でした！
(矢部)

自分にできること

新型コロナの流行で大変な状況ですが、幸いこぶしはコロナの影響が比較的小さく、私たちは概ね普段通りの勤務ができています。しかし、利用者さんはそうではなく、外泊や買い物に行けずストレスの溜まる生活を余儀なくされています。利用者さんの「お家に帰りたい」「買い物に行きたい」との訴えに対し、今は行けないと伝えることしかできず、いつも歯がゆい思いをしています。

今自分にできることは何か。それは余暇課員として、利用者さんの余暇活動の楽しみの幅を広げ、施設内で充実した時間を過ごせるような活動を提供することだと考えています。

この間開催したおやつ会では、利用者さん達がピザやフルーツポンチを楽しそうに作り、召し上がる様子が見られました。他にもカラオケ大会や折紙教室等を開催したところ、皆さん楽しそうに参加されました。苦しい状況ですが、外出できなくても楽しい！と思って頂けるように、これからも楽しい体験を提供していきます。

生活支援員 川瀬 涼太

～GW余暇活動～ おやつづくり・シャボン玉



私たちは、新型コロナウイルスによって様々な不安やストレスを抱えてしまいました。しかし、「コロナの影響があっても、こんなことが出来るよ」と職員一同励まし合いながら、目の前の難局を乗り越えようという気持ちでいっぱいです。一人ひとりの行動や意識のかけかたは変えられます。新型コロナウイルスがどこかにいることは変えられません。変えられるのは職員の利用者さんに対する気持ちです。

そんな中、ある利用者さんが高熱を出しました。その方は通院を常時している方でしたので、新型コロナウイルスの疑いは少なからずあります。39度以上高熱になり医療機関へ連絡しましたが、どこも受け入れてくれる所はなく、4日間の経過観察を余儀なくされました。この時の責任者は私しかいません。上席に連絡して、感染症を想定した対応を実施しました。まずは、感染エリアと非感染エリアをどう設けるかを考えました。利用者さんは重度の自閉症の方です。本来であれば他の棟でのゾーニングでしたが、不安感の強く拘りもありましたので居室での対応を試みました。まったく想定していなかった対応です。私も含めて看護師と感染症対応の職員を限定し3名で取り組みました。防護服の着用は暑さで汗をかき体力の消耗も激しいです。最前線で働いていらっしゃる医療従事者のご苦労が大変身に沁みました。利用者さんの健康状態の改善と、もしものことを想定し他に感染させない対応は、本当にこれで良いのかと不安になります。対応した職員の健康も心配でした。そんな中、職員皆が自分の役割を把握し、知恵を出し合い協力しあいながら対応出来たことは励みになりました。「どんなことがあっても、皆で乗り越えられる」そんな職員の意気込みを感じ4日間が過ぎました。受診後、懸念されていた症状はなく、安堵しました。

法人をあげて新型コロナウイルスの罹患が疑われる場合を想定した感染症対策を検討していました。実際現場で起きることは想定外になることはあります。しかし、そんな時でも、こぶしの職員は決して諦めない、強い気持ちを一つにする力を持っていると、今回の経験で感じる事ができました。

相談支援専門員 佐藤 幸雄



清瀬事業所 ～地域貢献活動～

清瀬市社会福祉協議会様が布マスク用の材料の提供を募集していることを市報で知り、清瀬事業所で作成した耳掛け用のゴム紐を寄付させていただきました。

ひもが非常に品薄になっており、大至急必要だったと大変喜んでいただきました。



ご寄附いただきました

ご利用者のご家族やそのお知り合いの方から、手作りの布マスク等をご寄附いただきました。どうもありがとうございます。

今後も職員一同感染防止に努めてまいります。



今年も「熱中症」の季節がやってきました

GW頃から、真夏を思わせる暑さが続いています。今年は例年以上に「熱中症」に気をつけなければいけないと言われていています。理由として、自粛生活による「運動不足」や「マスク着用」等があげられます。外出の機会が減って暑さに慣れていない事、運動不足による筋肉量の低下が脱水を起こしやすい事、マスク着用による熱のこもりが喉の渇きを感じにくくする事等があげられます。

【熱中症を予防しましょう】

1. 食事は3食きちんと食べましょう→体力をつけましょう。
2. こまめな水分補給を心掛けましょう→時間を決めて少しずつ飲むのも良いですね。
3. 換気をこまめに行い、湿度も高くないようにしましょう→今、気温・湿度はどうか？
4. クーラーを上手に使いましょう→「暑い」と感じない環境を。



看護師 新井 朋子